

拝啓「ある年の年末に私の来年を占った、男鹿半島の小さなスナックで出会ったお店のおねえちゃん」様

「もう一度言わせてもらいますが、その行為はまぎれもなく、心の詐欺師です」

あなたは、ひよっとして親切で私に言ったのかもしれませんが、あのときの私には大きなお世話でした。

ヒップアップの営業で行った男鹿半島の小さな町で、仕事はハネたあとみんなで飲みに行ったその町で、数えるほどしかないスナックのひとつの店にあなたという人はいました。

たわいもなくワイワイ、ガヤガヤと下心とスケベ心が入り交じった中、浮かれたように酒を飲み、その日のストレスを吐き出すように騒いだ後、ほろ酔い気分心地よい疲れとともにホテルへ帰ろうとした時のことです。おあいそをしようと立ち上がった私にあなたは言いました。

「島崎さん、あなた、来年気をつけた方がいいわよ。なんか悪い事が起こりそうな気がするの。そんな相が顔に出てるわよ」

私はたちまちに、その心地よい気分が吹き飛んでしまいました。そして、言いようのない不愉快な憤りが私の心を襲いました。

占いか霊か知りませんが、そして何を根拠にそんなセリフを吐いたか知りませんが、まだ来てもない私の来年、まだ過ぎてもいない私の来年を、会ってまだ何時間も経っていない見ず知らずの他人にそういうふう決めつけられたことに、無性に腹が立ってしまいました。しかも良い方ではなく、悪い方です。はつきり言ってそれは、私からすれば親切でもなんでもありません。失礼きわまりない、一方的で自分勝手な忠告です。人の人生にたいする内政干渉です。

来年もそうするであろう私のやる気や努力や向上心を無視した、それはもういいがかりです。

もし、あなたが純粹に親切な気持ちで私にそのセリフを言ってくれたとしたならば、百歩譲って「ありがとう」と言っておきましょう。しかし、その占いか霊か直感か知りませんが、その感じた事がその対象の人にとって悪い事であったのならば、それは絶対言ってはダメなことです。私はいつさいそういうことを信じていませんが、言われれば人はいい気持ちはしません。はつきり言って、縁起でもないような悪い気持ちにさせられます。そして、それが心の中で悪い予感を呼ぶのです。そしてその悪い予感が、現実には悪い事を呼んでしまうのです。

私は占いか霊はいつさい信じませんが、その人が心の中で思い描いたことは実際現実となって現れるということは信じます。それは私の人生の中では何度も感じましたし、経験しました。今では私が人生を生きていく上での、いいヒントとなっているぐらいです。

占いか、そういうものが現実にその未来が起きてしまうというものであれば、おねえちゃん、そんなことはいつさい忘れてあなたのあのとき言ったセリフをほんと、ありがたく受け止めてあげましょう。しかし、私の今までの印象では、ほとんどのそういうものがウサン臭く、そしてインチキくさいわけで、そんな賭博の長か半のような自分勝手な予感というよりむしろ予想に、人の人生や人の心にまで入り込み、さもありがちな顔をするのは史上最底の失礼な行為だと思います。しかもそれが悪い予感であれば、なおさらのことです。本当はなににも起こらなかったかもしれないことが、その悪い予感によって実際に起きてしまうということだってありうるわけです。そういう

場合はどう説明するのでしょうか。

「ほら当たった。私の言った通りでしょう」とでも言うのでしょうか。それはあまりにも虫が良すぎます。そういうものを占った人がそんなことを言わなければ起こらなかったもしれないことなのです。当たるもはつけ当たらずもはつけと、対象の人から占って見てくれませんか。と頼まれてもしない限り、絶対自分でそう感じて、それはその人に口にして言うてはいけないことです。そして、それが悪い予感であれば、何度も言うようですが、絶対なおさらです。

私が占いとか霊とか、そういうものを信じないのは「すみません。ハズしました」というものがないからです。当たらなければ当たらないで、なんやかんやと理由をつけます。ひどい人になれば「私が占ったことによつて、あなたが知らず知らずのうちにそれを寄せつけないようにしていたから、何も起こらなかったのです」なんて、ふざけたことを言う人もいます。いい加減にしてほしいものです。それはもう、立派な心の詐欺師です。人の心をもてあそぶバチ当たりもんです。

男鹿半島で出会ったスナックのおねえちゃん、あなたどうしてくれるのですか。あなたが占った私の次の年は、何にも起こらなかったじゃないですか。それどころか、いいことがいっぱいあったじゃないですか。あなたに言われて縁起でもないような悪い気持ちをどこか心の中に持ったまま過ごした一年でしたが、終わってみれば私にとってすばらしい充実した一年だったじゃないですか。

どうしてくれるんです。あなたに不愉快な気持ちにさせられ、一年間もそういう気持ちの余韻を心の中にどこか残したまま暮らしたおとしまえを、どうつけてくれるんです。人の来年という一年を、言葉の上とはいえ私はあなたという人に勝手に決めつけられたので

す。私にとって大事な自分の一生の中の一年を、まったく第三者であるあなたというアカの他人に決めつけられ、悪い予感や縁起でもない気持ちにさせられたのです。しかもその結果は、あなたの言った通りではなく、本当に私にとっていい一年だったにもかかわらずにです。あなたのどこにそんな権利や権限があるのですか。いい加減にしてください。そんなの占いでもなんでもない、たちの悪いただの悪ふざけです。シャレにもならない、それはもう、立派な人の心を舞台にした罪行為です。

もう一度言わせてもらいますが、その行為はまぎれもなく心の詐欺師です。自分たちで自分たちの予言を「当たった」とかいう言葉で表現すること自体が、考えてみればほんとウサン臭いです。人の人生や心を対象にして、占いという賭け事のようなことをするのは、ほんと、人の心を舞台にしているだけに、もう神様仏様に対して冒涇だと思えます。

私は人の心に土足であがり、占いというもってもらしい手段を使って、予感という勝手な思い込みでその人の心は無神経に好きな色に染めてしまうような行為を平気でやっているあなたたちこそ、いい人生が送れないような気がします。そして、その私の「いい人生が送れないような気がします」という最後の「気がします」という部分の予感のほうで、あなたたちの占いよりも当たる確率が高いようなこれまた気がします。

男鹿半島で出会ったスナツクのほんと失礼なおねえちゃん、どうです、私と賭けてみませんか。私のその「気がします」という予感に賭けてみませんか。いくらでもいいです。あなたの希望の金額に賭けてやります。百万でも二百万でもいいですよ。お互い用意できないと

思いますが、一億、二億でもいいですよ。どうです、勝負してみませんか。私は絶対勝つ自信があります。

追伸

あれからもう二〇年以上経ちました。いい人生が送れているかどうかという答えの兆候は、もう出ているのかもしれない。おねえちゃん、あなたのその後の人生こそどうですか……。

もうあのときの事はあのときの事として水に流してやります。あなたに、私がここで書くほどの悪気がなかったことだけは分かっていますし、確かですから。

私もあのときは大人げなく怒り過ぎてしまいました。許して下さい。でも分かってくれるでしょう。ほんと、言われる人間にとっては縁起でもないことなんです。それはもう、余計で大きなお世話以上のものなんです……。

以上